

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	大和運輸株式会社岸之浦倉庫新築	階数	地上1F
建設地	大阪府岸和田市岸之浦町	構造	S造
用途地域	準工業地域、法22条地域	平均居住人員	3人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,000時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年11月 予定	評価の実施日	2019年4月15日
敷地面積	6,006 m ²	作成者	唐妻敏之
建築面積	2,808 m ²	確認日	2019年4月15日
延床面積	2,808 m ²	確認者	唐妻敏之



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 2.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	岸和田市に新築される倉庫の計画である。風通しに配慮した計画とし敷地外への熱環境に配慮した。	その他 特になし。
Q1 室内環境	居室はない。	Q3 室外環境(敷地内) 大阪府自生種や潮に強い植栽を採用し敷地環境にあった緑化計画を行っている。
LR1 エネルギー	空調等設備の必要ない倉庫の計画であり省エネ計算適用対象外建築物であるがLED照明を採用する等して配慮している。	LR3 敷地外環境 風通しに配慮した計画とし敷地外への熱環境に配慮した。 荷捌き車用の駐車スペース(プラットフォーム)の計画や出入口及び敷地内での道幅を確保し交通負荷抑制に配慮した。
Q2 サービス性能	階高や壁長さ比率に余裕をもちフレキシビリティある計画としている。	
LR2 資源・マテリアル	内装仕上げが無く、設備は更新の際に錯綜なく取り外せることで再利用可能性向上に寄与している。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H31-0019

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】		建物名称	大和運輸株式会社岸之浦倉庫新築工事					
		建設地	大阪府岸和田市岸之浦町					
		用途/区分	工場					
【評価結果】		CASBEE 総合評価	★★★★★			B-		
①	CO2削減	★★★★★			評価対象外			
②	みどり・ヒート アイランド対策	★★★★★			3			
③	建物の断熱性	★★★★★			評価対象外			
④	エネルギー削減	★★★★★			評価対象外			
⑤	自然エネルギー直接利用				—			
		再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
			太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
エネルギー消費量の報告						報告しない		
【評価項目】								
項目		評価内容			スコア	評価		
① CO2削減		CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				—		
② みどり・ヒートアイランド対策						3		
生物環境の保全と創出		CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価			2.0			
敷地内温熱環境の向上		CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価			3.0			
温熱環境悪化の改善		CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価			3.0			
③ 建物外皮の熱負荷抑制		CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				—		
④ 設備システムの高効率化		CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				—		
⑤ 自然エネルギー利用		CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				—		
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。			報告する 報告しない	報告しない		
その他								
		技術の名称			考慮事項			
先進的技術の導入								
特に配慮した事項								